

「成功事例の真似」も 活性化への近道

株式会社 ティップネス 取締役 常務執行役員

笹尾敬子さん

Keiko Sasao



体の調子を見える化

ニュースキャスターなどを経て、2年前にフィットネスクラブを運営する業界大手、ティップネスの初の女性役員に。首都圏や浜松、藤枝など全国で総合ジム60店、24時間年中無休のファストジム74店などを展開する。ファストジムは首都圏で100店を目指している。

時代を先取りし、注目を集めているのが「1WEEK CONDITIONING」と

静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

いう独自のメソッド。疲労回復ジムとも呼ばれ、その時の体の調子を測定器が瞬時に数値で表示し、疲労度に応じ運動や日常生活まで含めた1週間単位のトレーニングメニューを提案する。「運動経験のない方でも安心してジムに来ていただけますし、専用アプリに登録すると、オススめの運動などをスマホで見られることもできます」。

本業とは別に、キャリアを積んだ女性たちの経験を生かしてもらおうと「Woman 50+ Network」を立ち上げ代表を務めるほ

共通点は地元愛と執念

か、「日本女性ウェルビーイング学会」副代表として女性の生命や健康を守る環境整備、社会への問題提起に取り組む。

清水出身の笹尾さんは「合併して清水の良さが継続されていないのがちょっと寂しい」と話す。生き生きしたまちに魅せられるのは簡単ではないが、それでも、その人の強い思いと執念で物事を動かしたり、賑わいを取り戻した成功事例を挙げ、「良いことは素直に真似すればいいんです」。

一つは、三保松原が世界文化遺産に登録された影の立役者といわれる老舗旅館「羽衣ホテル」女将の取り組み。「彼女はあの素晴らしい風景を後世に残さないといけない」といって、数十年にわたり諦めずに行政など様々な所に働きかけてきたんですね。まさに女将の思いが実ったのだ。

もう一つは、熱海市役所の男性職員が、主にテレビキー局をターゲットに「制作部さん、いらっしゃい」などのうたい文句で始めた口説誘致活動だ。テレビでの露出は急増し、宿泊客数はV字回復。「シャッター街だった商店街にお洒落なカフェやお店が進出し若者もぐんと増えて熱海は生き返ったんです」。

二人に共通するのは地元愛と執念と行動力。「お一人のような方を発掘して応援していくことは活性化につながる近道でもあると思います」。

(文：長田義明、写真：笹尾さん提供)

経歴

静岡市清水区生まれ。県立清水東高校卒業。慶應義塾大学文学部卒業。日本テレビ放送網株式会社入社。警視庁記者クラブ初の女性記者として事件・事故などを取材、ニュースジブキャスター、ズームインサタデーニュースキャスター、IRセンター長兼経営企画部長、コンプライアンス推進室長、業務監査室長(局長職)などを経て、2016年、日本テレビグループの株式会社ティップネス取締役常務執行役員に就任。女性の社会進出などを後押しするWoman 50+ Network代表、日本女性ウェルビーイング学会副代表。
<https://www.tipness.co.jp/>